

令和7年6月熊本県議会定例会

農林水産常任委員会報告資料

① 「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンについて

農 林 水 産 部

基本方針(抜粋)

総合戦略(抜粋)

第4章 取組みの基本的方向性(4つの柱)

- 子どもたちが笑顔で育つ熊本
- 世界に開かれた活力あふれる熊本**
(施策3)「食のみやこ熊本県」の創造
- いつまでも続く豊かな熊本
- 県民の命、健康、安全・安心を守る

(施策3)「食のみやこ熊本県」の創造

- ①農林畜水産業の担い手確保・育成
- ②稼げる農林畜水産業の実践**
■生産性向上 ■高付加価値化 ■持続的発展
- ③食育の推進・食文化の発展**

次期農業・林業・水産業に係る各基本計画(案)の概要

計画期間 R6~R9

新たな計画の構成(案)

※各計画における「食のみやこ熊本県」の創造に向けた主要な取組みは桃色で網掛け

熊本県食料・農業・農村基本計画

～「食のみやこ熊本県」の創造に向けた稼げる農畜産業の実現～

熊本県森林・林業・木材産業基本計画

～持続可能な森林経営と新たな価値の創造を目指して～

I 持続的で活力あふれる稼げる農畜産業の実現

1 担い手の確保・育成と経営基盤強化

- ①担い手の確保・育成と経営継承の取組み拡大
- ②農業・農村を支える人材の確保・育成
- ③企業等の農業参入の促進
- ④担い手への農地の集積・集約
- ⑤農畜産業振興と半導体関連企業等進出の両立に向けた営農継続支援
- ⑥農業団体の経営基盤・活動の強化

3 農畜産物の高付加価値化・販売力強化

- ①県産農畜産物の販売力強化と生産・加工等工程の最適化
- ②6次産業化等の推進
- ③地産地消の推進
- ④農畜産物の輸出拡大

2 農畜産物の生産性向上・競争力強化

- ①スマート農業・DXの実装加速化による生産性向上
- ②生産力の強化に向けた新品種・新技術の開発・普及
- ③魅力ある農産物の生産体制強化
- ④持続的な畜産経営に向けた生産基盤強化・収益性向上
- ⑤強固な生産基盤の整備と保安全管理

4 環境に優しく変化に対応した生産体制の確立

- ①地下水と土を育む農業及びみどりの食料システムの推進
- ②農業・農村の国土強靱化の推進と災害対応
- ③自然災害・価格低迷等に対応したリスク軽減対策の推進
- ④家畜伝染病、病害虫の侵入リスクを最小化する防疫体制強化

II 中山間地域等の農村活性化

1 地域資源を活用した元気で豊かな農村の実現

- ①中山間地域の特徴を活かした「しごと」「くらし」づくり
- ②都市と農村との交流による地域活力の向上

2 次世代へ引き継ぐ生産基盤の強化と農業・農村の多面的機能の維持・発揮

- ①中山間地域における農地基盤整備と集積による基盤強化
- ②多面的機能の維持・発揮
- ③鳥獣被害対策とジビエの利活用の推進

[topic] 食料の安全保障に係る熊本県の取組み

1 未来の林業を担う人材の確保・育成

- ①林業を支える“山の人材”づくり
- ②林業DXによる林業生産性及び安全性の向上

2 森林資源の適正な管理及び利用

- ①森林の経営管理の推進
- ②適正な伐採と循環利用のための再造林の着実な実施
- ③森林病虫害対策等の推進
- ④森林吸収量の確保に向けた適正な森林整備
- ⑤森林の持つ多面的機能を支える研究・技術開発と林業普及活動の展開

3 県産木材の利活用の最大化

- ①脱炭素社会の実現に向けた木材利用拡大の推進
- ②木材産業の競争力強化
- ③県民に対する木材利用の理解醸成

4 県民の期待に応える多様で健全な森林づくり

- ①公益的機能の発揮に向けた適正な森林管理の推進
- ②安全・安心な森林づくりの推進
- ③県民や企業参加の森林づくりの推進

5 新たな価値の創造による山村地域の維持・活性化

- ①森林空間の総合的な利用
- ②**特用林産物の生産振興**

[topic] 緑の流域治水について

熊本県水産基本計画

～海洋環境の変化やリスクに強い「くまもとの水産業」の実現～

1 海洋環境の変化に対応した持続的な漁業・養殖業の推進

- ①頻発化する赤潮への対応
- ②養殖成長産業化(スマート水産業技術の推進など)
- ③資源管理・栽培漁業の推進
- ④水面の総合利用と漁業秩序
- ⑤漁場環境の保全
- ⑥試験研究・普及活動の推進

2 水産業を支える人づくり

- ①漁村を担う人づくり
- ②意欲ある漁業者の経営安定対策の強化
- ③漁業協同組合の持続的な体制整備

3 稼げる水産業の推進と販売体制の整備

- ①県産水産物の販売力の強化
- ②**地産地消と魚食普及の推進**

4 海業等の推進による漁村の活性化

- ①浜の活力再生プランの加速化と支援
- ②安全・安心な漁港整備や海業の推進による活力ある漁村づくり

ビジョンは朱書き項目を対象。これまでの新商品開発や販路拡大等の出口対策の支援は継続。食関連の現状及び有識者会議等の意見を踏まえ、稼げる農林畜水産業の実現及び熊本の食関連産業の発展等への新たな取組み、視点を追加

熊本県の「食」を取り巻く現状及び有識者会議の概要

農林畜水産業の現状

変化に富んだ地形や気候、豊富な水資源を活かした**多様な食資源（農林畜水産物）が存在。バランスの良さが強み。**

農業産出額	全国5位（R5年 3,757億円）
生産農業所得	全国2位（R5年 1,554億円）
6次産業関連販売金額	全国3位（R5年 889億円）
農林畜水産物の輸出額	過去最高（R5年 122億円）
収穫量全国1位の品目	トマト、すいか、不知火類（デコポン）等
畜産業	乳用牛や肉用牛で飼養戸数、飼養頭数ともに全国上位
水産業	海面養殖業産出額：全国5位（R5年 381億円）
GI制度登録産品数	全国1位（10産品）
県産酒（焼酎）	全国6位（球磨焼酎（組合加入27蔵）を中心に生産

県民の「食」に対する意識・関心

県民の半数以上が熊本県が農業産出額が全国トップクラスであることを知らないが、**食材・料理（グルメ）はおおむね魅力があると認識。**（※データ：県によるインターネット調査）

熊本県を「食のみやこ」として認知している割合は過半数（67.8%）。熊本の「食」の魅力を高めていくには、食と観光の連携やイベント・フェア、情報発信の強化が必要との意識。

①熊本県の農業産出額は全国5位であることを知っていますか？

- はい：36.8%
- いいえ：63.2%

②熊本県の「食材」は魅力があると思いますか？

- そう思う：52.5%
 - ややそう思う：40.6%
 - あまりそう思わない：5.3%
 - そう思わない：1.6%
- 93.1%

③熊本県の料理（グルメ）は魅力があると思いますか？

- そう思う：38.1%
 - ややそう思う：47.1%
 - あまりそう思わない：12.6%
 - そう思わない：2.2%
- 85.2%

④熊本県は「食のみやこ」とだと思いますか？

- そう思う：21.2%
 - ややそう思う：46.2%
 - あまりそう思わない：28.1%
 - そう思わない：4.5%
- 67.8%

⑤熊本県の「食」（食材、料理）の魅力さをさらに高めるために必要なことは何だと思いますか？（複数選択可（上位5件））

- 食と観光の連携：55.6%
- ブランド強化と情報発信：49.3%
- 食に関するイベント・フェアの開催：44.3%
- 地域・行政・民間の連携体制の構築：27.8%
- 新たなソウルフード（ご当地グルメ）の開発：24.5%

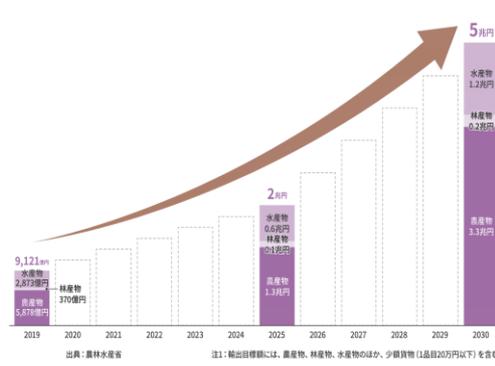
熊本県の「食」を取り巻く環境

世界の食関連産業市場は右肩上がり

日本食は海外でも人気、輸出も過去最高

「食のイメージがある都道府県」で熊本県は25位。

国内外観光客の観光消費単価（宿泊費、飲食費、買物代等）は、九州で低い水準。



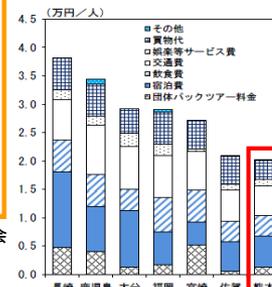
■食のイメージがある都道府県

順位	都道府県	回答割合	昨年順位	割合
1位	北海道	51.0%	(1位)	52.5%
2位	大阪府	30.4%	(2位)	33.7%
3位	福岡県	25.0%	(3位)	25.7%
4位	沖縄県	19.7%	(4位)	21.3%
5位	京都府	17.0%	(5位)	18.5%
25位	熊本県	7.3%	(27位)	7.2%

（引用）「食のイメージ調査2024」（有限会社永瀬事務所バイヤーズ・ガイド事業部調べ）

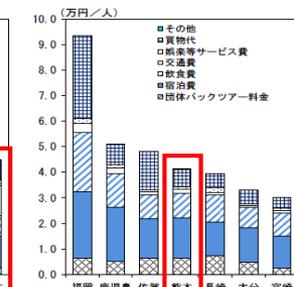
（国内観光客）

▽観光消費単価（全目的）
＜2023年、日本人＞



（外国人観光客）

▽同左
＜2023年、外国人＞



有識者の主な意見及び現状等を踏まえた課題の整理

1. 有識者の主な意見（有識者会議：第1回2/17、第2回5/26）

- 熊本の「食」に対する県民の意識・関心度の醸成
- ブランディング・PRの強化（食のイメージが低い、何でもあるが故に印象に残らない）
- 県外フェア実施後の継続したEC等商取引・流通の確保
- 県庁自身がしっかり旗振り役を担い、くまモンを有効活用
- 料理人に焦点を当てた支援（食の多様化への対応、県内料理人と有名シェフの交流）
- 「食のみやこ熊本県」の創造に向けた〇〇プロジェクトとして明確な事業に取組む
- 県組織の広報機能強化 など

2. 課題の整理

- 熊本が「食のみやこ」を目指すためには**全国的な「食」のイメージ向上が課題。**
- 県外からの「食」のイメージ向上だけでなく、**県内（県民）の機運醸成も必要。**
- EOをはじめとした事業者の流通・販売網の強化（多様な販売チャネルの確保）も必要。**
- 熊本地域の食文化を生かした観光誘客や**レストラン・料理人の充実・強化**を図ることが有効。
- 今後、農業を取り巻く厳しい状況（資材高騰、温暖化、担い手の高齢化等）を踏まえ、改めて「食のみやこ熊本県」の創造に向けて、**従来の高付加価値化や販路拡大等の施策をしっかりと進めつつ、課題に対して様々な施策を展開していく。**

「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン概要（素案）

目指す姿

熊本の食で世界を魅了し、農・食関連産業が活性化しながら県民が豊かになる

1. ビジョン策定の主旨

・農・食関連産業は生産・加工・流通から観光業まで裾野が広く、雇用の創出や経済発展に大きく寄与する重要な産業。

・日本の食を支える本県のポテンシャルを最大限に活用し、関係者が一丸となって農林畜水産物等の高付加価値化や販路拡大を推進していくため、その道標となるビジョンを策定するもの。

2. 熊本の農林畜水産業の現状

・農業産出額全国5位／生産農業所得全国2位
・バランスよく多彩な営農（野菜、畜産、果実等）
・首都圏等へ多くの農産物を流通・販売
・農林畜水産物の輸出額過去最高を更新

3. 農と食を取り巻く情勢と課題

【農と食を取り巻く情勢】

- ・担い手の減少や高齢化
- ・生産資材価格、輸送コスト等の高騰
- ・地産地消行動の低下、県民の食関心の不足
- ・「食」のイメージ、認知度の不足
- ・国内外からの観光客の増
- ・世界の食関連市場規模の拡大



(ビジョン策定に向けた課題)

- 県民の食関心の向上（地産地消、食育）
- 高付加価値化（6次産業化・ブランド戦略）
- 販路拡大に向けたPRの強化
- 観光客の食の消費拡大（レストラン等の充実）
- 輸出の拡大
- 農・食関連産業の集積

4. 方針



熊本の「食」の基盤の構築

～県民が熊本の食の豊かさを知る・食でつながる～

- ◆ 1-1 「食」への関心度・理解の醸成
- ◆ 1-2 食の関係者によるネットワークの構築
- ◆ 1-3 地産地消の推進
- ◆ 1-4 食育・食文化の継承



高付加価値化と消費拡大

～熊本の食を買いたくなる・訪ねたくなる～

- ◆ 2-1 6次産業化（加工・新商品開発）の推進
- ◆ 2-2 認知度向上と販路開拓
- ◆ 2-3 食をフックとした観光誘客の推進
- ◆ 2-4 食の魅力向上につながる料理人の育成
- ◆ 2-5 輸出拡大支援と海外での認知度向上
- ◆ 2-6 官民による食を消費する機会の創出



農・食関連産業の集積とイノベーション

～食を起点とした新産業が活性化する～

- ◆ 3-1 地域内生産物を活かす企業・研究開発機能等の集積等（県南フードバレー構想ステージ2の展開）
- ◆ 3-2 産学官連携によるフードテック・アグリテックの展開



推進体制

関係機関連携による推進体制を構築

5. 重点7項目のプロジェクト



1 くまもとの「食」県民運動！

・SNSで期間ごとに1品目に絞ったPRや県内の「食」が集結するイベントを開催し、食への理解・関心を醸成。



2 オンラインによる販売強化！

・大都市圏でのフェア開催や展示会への出展などの取組みと並行して、ECによる流通・販売網を強化。



3 来なっせ 食べなっせ くまもと！

・熊本の「食」コンテンツの磨き上げとPRを強化し、「食」による観光誘客と観光消費額を増加。



4 情報発信力のある料理人の育成！

・県産食材の高付加価値化と消費拡大を図るため、県産食材を活かし、魅力を発信する料理人を育成。



5 ブルーオーシャンへの輸出開拓！

・輸出拡大に向けて、市場調査やテストマーケティングを実施し、次なる市場（新規国）を開拓。



6 くまもと県南フードバレーステージ2！

・県南の食文化を活かした商品開発支援と、食品関連企業の育成と誘致に取り組み、県南地域を活性化。



7 熊本発フードテックの展開！

・先端技術を活用し、食の可能性を広げるフードテックの取組みを支援し、優良事例を創出。

対象期間

R7～R9年度とし、『くまもと新時代共創総合戦略』及び『食料・農業・農村基本計画』等の具体的施策として位置づけ。